

支えられてきた日々 ～振り返れば感謝がいっぱい～



北水会記念病院 | 阿部八千代

仕事編

1 Q 診療放射線技師を目指したきっかけ

A 教員になることが小学生からの夢でした。進学にあたり両親からの条件は県内にいることと浪人は不可。理系希望の私に病院の事務であった父が勧めたのが診療放射線技師と検査技師でした。教員になる夢はかなえられませんでしたが、思いもよらず合格した医療短大に入学したことで将来の道が定まりました。今でも父には感謝しています。

2 Q やりがいを感じるとき

A 午前中は検診の胃バリウム検査が主な業務となっています。健診の中でも一番嫌がられる検査ですが、スムーズに戸惑わせることのない誘導を心がけています。検査が終わって「とても分かりやすく検査を受けやすかった」「バリウムも飲みやすかった」と言われることがあります。こういう検診者との会話の中にやりがいを感じることが多いです。所見を明確に描出できた時はもちろんですが。

3 Q 私の職場遍歴

A 初めて就職した癌研究会附属病院から6施設目です。転職や専業主婦、復職を経て今の職場 北水会記念病院にいます。ライフワークと決めていた胃バリウム検査ができるこの職場で今年3月に定年を迎え、今は再雇用の契約社員として働いています。

4 Q マンモグラフィとの関わり

A 就職してまずマンモグラフィを教えされました。専業主婦の間に認定技師制度ができていて40歳からの手習いは結構大変でした。最初の試験監督は癌研の先輩技師、不合格でとても恥ずかしい思いをしました。3度目でやっと合格はしたものの更新はいつもC。何度もランクアップに行くもののアップできないまま今があります。勉強は若いうちがお勧めですね。

5 Q 良い医師や先輩との出会いについて(尊敬できる先生がいるか、いたかなど)

A 多くの尊敬する先生方、先輩技師の方々に巡り合いました。中でも丸の内の海上ビル診療所時代の浅田技師長には退職した後も何度もお会いし、仕事もプライベートもアドバイスをもらいました。失敗したことをよくよいつまでも引きずることなく前向きに進めとよく言われた気がします。